

バオバブの植え替えについて

濱谷修一・信太千帆・北木健児

サボテン温室に地植えしていたバオバブ (*Adansonia digitata* L.) を鉢に移植したので、概要を報告する。

移植した株は平成 2(1990) 年に個人愛好家から分譲を受けた株で、平成 9(1997) 年にサボテン温室の植栽変更の際に地植えしたものである。50cm ほどの間隔で 2 株植えていたが、8 年が経ち、株が大きくなってバオバブだけでなく他の種との間においても競合が心配されるようになったため、平成 17(2005) 年 5 月 10 日に一株を掘り上げ、鉢に植え替えた。

移植した株は、樹高約 4m、地際の幹直径 12cm の大きさだった。移植時、葉はまだ展開していなかった。掘り上げの際、根の様子を観察したが、横方向に伸びる根は少なく、下方向に太い根(直根)が伸びていた(写真 1)。植え替える鉢の大きさを考慮し、40cm 程度の長さで直根を切った(写真 2)。根はサ

クサクとした感じで柔らかく、水気が多かった。

掘り上げた株は直径約 60cm、深さ約 50cm のプラスチック鉢に植えつけた(写真 3)。植え込み用土には、赤玉土の中と小、ぼら土の小粒をほぼ等量に混ぜたものを用いた。

その後、倒れないようにサボテン温室の柱に被覆線で固定し、用土の表面が乾いたら水を与え、肥料(化成肥料)を適宜与えた。

植え替えた株は特に衰弱する様子もなく、葉の展開状態は地植えのものとほぼ同様であったが、12 月上旬から落葉が始まった。(地植えの株は 1 月上旬に落葉開始)

なお、今回の植え替えは公開イベントとし、マスコミ等に情報提供したが事前の取材はなく、当日見学者も 20 名と期待した数ではなかった。バオバブは、その奇抜な形態から興味を引く植物であると考えていたが、実際の認知度はあまり高くないようだ。

ただ、植え替え当日には新聞社 1 社の取材があり、今後も入園者が興味を示す植物の栽培・展示や普段見られない裏方の作業状況なども、広報素材の一つとして考えていきたい。



写真 1. 掘り上げの様子



写真 2. 根の様子



写真 3. 植え付けの様子